

# 地区まちづくりをもっと広めたい・つなぎたい 広報パワーアップ講座

まちづくり協議会の広報を担当するにあたり、「作り方がわからない」「文章が苦手」「内容がマンネリになってしまう」…といったお悩みの声をよくお聞きします。

そこで今年度は、『広報パワーアップ講座』と題し、地区広報活動の視点や技術、活動のさらなる活性化に向けたスキルを学びました！



## 第1回 1月23日(水) 「広報とは?を学びながらやりがいや楽しさを確認する」

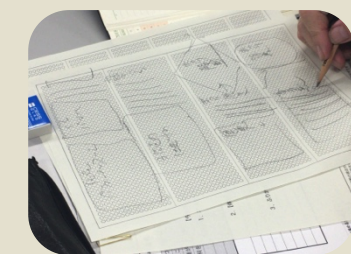
広報の基礎を学んだあと、広報活動の流れを体験するために、『全員参加新聞づくり』を行いました。

「活動の楽しさ」「やりがい」「活動上での悩み」などテーマに沿って参加者がそれぞれにインタビューを敢行！グループごとに内容をまとめます。

取材をとおして、多くの共感や気づきを得ることができました。



## 第2回 2月15日(金) 「広報誌づくりをするために知っておきたい技術を学ぶ」



フリーライターの石川紀子さんを講師にお招きし、取材のポイント、ノウハウなど基本的なスキルを学びました。

何を伝えたいのか、どうすれば伝わるのか。架空の「ふじやま町秋祭り」を題材に取材メモ（インタビューで聞きたい内容）を作成。コマ割り、タイトル決め、写真の撮り方、取材の七つ道具などなど…盛りだくさんでした。

## 第3回 3月12日(火) 「広報を生かしたまちづくりの方法を考える」

地図づくりゲームをしながら、情報の整理と発信について考えました。「行事報告」になりがちな広報ですが、地区の情報や人をマッチングできる重要な役割を担うこともできます。最後は、各地区の広報誌を読み合い、大いに盛り上がりました！



【発行】平成31年3月  
【発行者】富士市市民部まちづくり課  
富士市永田町1丁目100番地(富士市役所3階)  
☎ (0545) 55-2887  
🌐 <http://www.city.fuji.shizuoka.jp/>



次号も  
お楽しみに♪



# コブタ レポート



チカラコブタくん

広報で思いを  
共有するコブ!

■地域の力こぶ増進計画・ニュースレター■

## 富士市まちづくり協議会活性化補助金

### 「3つの重点事業」

情報共有

防犯・交通安全

防災

富士市まちづくり協議会活性化補助金の3つの重点事業加算の1つである「情報共有」分(最大5万円)は、平成29年度では21地区が活用しています。

各地区からの事業報告書によると、用途のほとんどは印刷費用に充てられ、地区で発行している広報誌の発行回数や部数を増やしたり、カラー印刷にするなど、広報誌の充実に役立てられています。

地区活動に関わる団体や人、活動と地区住民をつなぐプラットフォームとしての役割を果たす広報は、それぞれの活動の充実に支える大切な活動です。それぞれの活動には、活動として現れている部分だけでなく、それに至る思いや活動によって目指す理想のまちのイメージなどがあります。広報では、活動の様子だけでなく、携わる人の思いも知らせることができます。また、住民の「知りたい」に答えることができる可能性もあります。



それぞれの活動目的や内容が伝わった実感や、地区のみなさんと共有された喜びを確認できるよう、文字だけでなく、写真や図なども用いて、わかりやすく読みやすい広報誌づくりをしていきたいですね。今回は、まちづくり協議会活性化補助金を活用することで、発行スタイルを変えた2つの地区を紹介します。

# 情報共有

## 岩松北地区

岩松北地区では、活性化補助金の導入をきっかけに、これまで生涯学習推進会が奇数月に年6回発行してきた広報誌の紙面を生涯学習推進会とまちづくり協議会が表と裏で分け合う形に変更し、新たにまちづくり協議会の情報を発信することになりました。

まちづくり協議会の紙面を担当しているのはまちづくり協議会副会長の丑沢清さん。

毎回掲載することを決め、その内容を担当しているまちづくり協議会の部会長に記事作成を依頼します。部会から預かった原稿は、誤字などのチェックをした後、そのまま割り付けて版下原稿を作り、まちづくりセンターで印刷し、各戸へ配布しています。2ヶ月に1回という発行頻度のため、行事などの告知や募集の記事も多いのが特徴です。



「安全をつなげて広げて事故ゼロへ」  
無事故・無違反コンクール  
7月1日～12月31日  
主催：静岡県交通安全協会富士地区支部

まちづくり協議会とは…  
まちづくり協議会は、平成29年度に市内12地区に設立された、住民主体のまちづくり活動を中心とした活動です。その中で、地域と自治体の関係、自治体と協働が図られるなど「まちづくり」の輪が広がっています。

まちづくり協議会ではこうして「まちづくり」の輪を広げ、地域で活動する自治体と協働した関係の構築、協働を促すために「協働」を導入しています。まちづくり協議会の設立により、今ある「まちづくり」の輪がさらに広がります。

この取り組みは、地域の活性化に大きく貢献しています。今後も、地域と協働した関係の構築、協働を促すために「協働」を導入し、地域の活性化に大きく貢献していきます。



丑沢さんが携わった行事などは直接執筆することもあるそうですが、「書いた団体や担当した人の温度、思いを直接地区の方々に届ける」ことを大切に、手書き原稿の場合もそのまま掲載しています。「今後は、地区のPRなど、新しい企画も考えていきたい」とのこと。

まちづくり協議会の部会体制を駆使し、2ヶ月に1回、年6回という頻度と味のある紙面で、地区まちづくり活動の新鮮な情報を届けています。

## 原田地区

原田地区では、これまで、原田地区生涯学習推進会が年2回発行してきた広報誌「オアシス原田」を、まちづくり協議会活性化補助金の活用によって、生涯学習推進会とまちづくり協議会が連名で発行することにしました。

制作は、文化広報部が担当。地区に生まれ育ち、現役新聞記者でもある内田勝之さんが全体の編集、4名の部員が取材と記事作成をしています。「住んでいる皆さんに、原田地区をもっと知って好きになってもらい、みんなで明るい地区に育てていきたい」との思いから、子どもからお年寄りまで楽しく読めて、飽きない、新たな発見がある紙面づくりを心がけています。

生涯学習推進会の活動報告だけでなく、地区の史跡や公園などを部員が実際に歩いて紹介するシリーズ企画や幼稚園、高齢者施設など地域の専門家によるお役立ち情報コーナーなど、さまざまな角度から地区の魅力を発信し続けてきました。

内田さんは、「始めは取材をすることや原稿を書くことにためらいがあったメンバーも、次第に活動の楽しさに気づいてくれるようになりました。個人の事情で活動を継続できないメンバーもいて、悩みはありますが、これからはもっと多くの仲間と紙面づくりをしたい。」と語っていました。

生涯学習推進会とまちづくり協議会が合同で発行することによって、まちづくり協議会のつながりを生かし、地区の身近な情報誌として、より一層多彩な紙面づくりが期待されます。

オアシス原田  
防災意識を高めよう  
文化祭賑わう  
私たちがからの提案

特集面は、地区の方々から「提案内容を知りたい」との声を受け、市立高校究タイム市役所プランを紹介しています。紙面の制作は市立高校に協力を依頼しました。高校側も、原田地区を担当したメンバーだけでなく報道部の部員にも加わってもらい、内田さんが紙面の作り方を直接指導しました。高校生は地区の方からの本格的なアドバイスに奮起し、紙面は、ほぼ全て高校生の手で作られました。

最新号のトップ記事は12月の地区防災の日になみ、防災部会に記事作成を依頼しました。防災訓練の報告だけでなく、災害時に発表される情報の解説や「災害対策チェック」の欄を設けるなど、家族みんなで何度も読み返してもらえよう工夫されています。防災部会の活動にもこの広報誌が活用されているようです。